

社会

➡ 3年生 | 「変わってきた人々の暮らし」

昔の道具のよさに気づかせよう！

1. はじめに

3・4年生では、古い道具について学習する。社会科は道具を通して「人」について学ぶ教科であるから、道具にこめられた当時の人々の苦労や思いをぜひ、子どもに考えさせたい。

2. 3つの時代で比べる

そのためには、祖父母の時代(昭和中期)・父母の時代(昭和後期)・現在(平成)と、3つの時代で比べるのがよい。ただし、道具によってはもっと昔(昭和初期以前)の物を取り上げてよい。大事なのは、真ん中の昭和後期の道具である。現在と比べたら不便かもしれないが、当時は画期的な新製品であり、暮らしを変えた道具が多くある。当時の思いを聞くことも、父母の世代なら比較的たやすいだろう。

例えば、洗濯道具。洗濯板とたらい、二層式洗濯機、そして現在の全自動洗濯機の3つを比べてみる。ボタン1つで洗濯・すすぎ・脱水・乾燥までできる全自動洗濯機はたしかに便利である。これに比べ、初期の二層式洗濯機は不便に思われる。しかし調べてみると、それまで洗濯にかかっていた時間を大幅に減らすことができ、主婦にとって画期的な発明だったことがわかる。

一方、昔ながらの洗濯板はというと、今でも家庭科の授業でくつ下などを洗う時に使っている。小物で汚れた物を洗う時は洗濯板のほうがきれいに落ちるのである。この時に、洗濯板の使用前と使用後を見せて、溝の工夫に気づかせる。こうすると、それぞれの時代の道具のよさや、使っていた人々の思いに気づかせることができる。

3. 現在に生きる昔の道具のよさを伝える

洗濯板のように昔の道具でありながら、現在も使われている道具を探すのもおもしろい活動になる。例えば、湯たんぼ。素材は当時と異なるが、仕組みはほぼ変わらずに、現在も使われている。よい物は時代を超えてよいということがわかる。

また、日本では使われなくなった物が海外で脚光を浴びている場合もある。ここで2つ紹介する。

1つは、私の住む千葉県で行われていた「^{かずさ}上総掘り」という井戸を掘る技術である。現在、日本で行われることは少なくなったが、少ない人員と道具で500m近い深さを掘ることができるため、水道が整備されていないアジアやアフリカなどで注目されている。

水のない地域では、子どもが遠くまで水くみに行くため学校にも通えなかったのが、上総掘りによって井戸が



(写真提供：君津市役所観光課)

でき、こうした生活を変えることができたという話もある。

2つめは、かつて日本のどの家庭にもあった蚊帳である。日本古来の蚊帳に最先端の技術が融合し、蚊帳を編む糸の中に殺虫成分を練りこんだ物が日本のメーカーにより開発され、ユニセフを通して普及が進んでいる。この効果もあり、蚊が媒体となるマラリアの感染件数が、アフリカでは49%減少した。

このように古い道具の当時のよさや思い、そして現在にも残るよさを子どもたちに伝えていきたい。

参考サイト IWP (International Water Project)
<http://homepage3.nifty.com/iwp/iwp-towa/iwp.htm>
 住友化学 <http://www.sumitomo-chem.co.jp/csr/olysetnet/>